

New Sophia Hospital

ニューソフィアホスピタル

福岡歯科大学医科歯科総合病院

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号 TEL092(801)0411

No.18
2016.12



病院の理念

私たちは、安全で質の高い、思いやりのある医療を提供するとともに、豊かな人間性を備えた有能な医療人の育成に努めます

病院の基本方針

- 1.患者の皆様を尊重した医療
 - ・温かく思いやりのある医療を提供し、医療倫理の向上をめざします。
- 2.高度医療の提供
 - ・医学、歯学の専門診療科が協力し、総合的で高度な医療を提供します。
- 3.地域医療への貢献
 - ・地域の基幹医療施設として、病診連携の充実を図ります。
- 4.痛みのわかる医療人の育成
 - ・人間性豊かで有能な医療人の育成に努めます。

第23回日本歯科医学会総会が開催されました

日本歯科医学会総会は、日本歯科医師会と日本歯科医学会の共同主催で4年に1度開催される日本歯科界最大の学術大会です。この一大イベントが初めて九州福岡の地で開催されることになり、福岡歯科大学を中心に九州歯科大学のほか、歯学部をもつ九州大学、長崎大学、鹿児島大学そして九州地区連合歯科医師会が共同で3年以上の期間を費やして準備を進めてきました。会頭は本学園水田祥代理事長で、10月21日～23日の3日間にわたって開催され、全国から約一万人の方々が参加しました。

開会講演では、iPS細胞でノーベル賞を受賞した山中伸弥氏（京都大学iPS細胞研究所所長・教授）と女性宇宙飛行士の向井千秋氏（東京理科大学特任副学長）の貴重なお話を聞くことができました。福岡国際会議場のメインホールには聴講者が入りきれず、配信映像を流した5箇所の特設会場も立ち見の人で溢れていました。また、日本のみならずアジア、北米、ヨーロッパからも講師をお招きして最新かつ広範にわたる学術プログラムが企画され、歯科医療の未来と夢につながる意義深い大会になったものと我々関係者は大きな達成感を得ることができました。

本院スタッフも最先端の学術や医療に触れ、たくさんの刺激を受けました。これを明日からの診療に活かし、患者の皆さまが満足する医療につなげてまいります。

障害者歯科教授 小島 寛



接触皮膚炎とアレルギー検査

皮膚科教授 古村 南夫

皮膚の「かぶれ」と一般に呼ばれる湿疹は、頻回に触れる物質により起こるアレルギー性接触皮膚炎です。原因となる物質（アレルゲン）に触れ、体が感作されて反応しやすい体質になり、再度触れた際に皮膚にかゆみ、赤み、水疱などのアレルギー反応が生じるのです。

金属によるアレルギー性接触皮膚炎の原因は、ピアスやネックレス、時計、ブレスレットなどの金属アクセサリーによるものが最も多いのですが、外しても治らない方では、お口の中の金属が原因となっている可能性があります。

アレルギー性接触皮膚炎の原因には金属以外にも様々な物質があります。たとえば、環境中の化学物質、日用品、化粧品、薬剤、食物などが関係することがあります。

原因物質を探すために行うパッチテストは、背中中の皮膚に複数のアレルゲンを貼り、1週間後まで皮膚炎が起こるかどうかが観察を続けて、原因となるアレルゲンを特定します。パッチテストで予想外のアレルゲンが見つかることもあります。原因が明らかになれば、生活の身の回りの品の中で、アレルゲンとなるものに接触しないように注意することができますので、今後の予防にもつながります。また、歯科金属が原因と考えられる場合には、お口の中に使われている金属の種類を調べて、金属パッチテストによる確認ができます。



パッチテストと試薬

お口の体操で健康長寿をめざしましょう

地域連携センター教授 永井 淳

「ごはんが味気ない」、「うまく飲み込めない」、「食べる時におせる」、「むせて咳き込んで目が覚める」というような症状にお心あたりはありませんか？もしこれらが、食べ物をかみ砕き、飲み込む力が衰えた現われであるなら、そのままにしておくと、危険な栄養不足や日本人の死因第3位の誤嚥性肺炎につながりかねません。

そこで、お口の働きを回復するためのお口の体操をご紹介します。①顔の筋トレ：お口や唇を大きく動かして「あ」「い」「う」を発音してみましょう、②舌の筋トレ：舌を前後左右上下に動かしてみましょう、③飲み込みで働く舌やのどの筋トレ：「ぱ」「た」「か」を早口で繰り返してみよう、④三大唾液腺のマッサージ：すべてを詳しくお伝えするには字数が足りないのですが…

実は福岡歯科大学では、ここでご紹介したお口の体操に口コモや認知症対策を合わせた「65歳からの健康づくり教室」を、福岡市からの委託で実施しています。お口の体操は医科歯科総合病院の歯科衛生士、ストレッチ運動は整形外科の理学療法士の専門的な指導を受けられるため、大変好評です。65歳以上で、要支援・要介護認定を持たず、お元気に生活されている方なら参加できます。来年2月1日からの週1回2時間、5週連続の教室にお出かけになりませんか？開催のご案内は、12月1日の市政だよりに掲載されます。ご参加お待ちしております。待ちきれない方は担当の歯科衛生士にご相談下さい。



お口の体操中の介護予防教室運営チーム

介護予防教室の運営は、医科歯科総合病院（歯科衛生士・歯科医師・理学療法士・看護師・准教授）、介護老人保健施設「サンシャインシティ」（介護福祉士）、および地域連携センター（事務職員）が参加する多職種連携チームで行われており、早良区保健福祉センターや早良区いきいきセンターとも密接に連携しています。

編集
後記

今年の秋は、夏の暑さが長引いたうえ次々到来する台風の後に、一気に冬に向かう不順な天候となって、体調管理の難しいところだと思います。さて、今回のニューソフィアホスピタルでは、本大学で開催された一大イベントである、日本歯科医学会総会の報告をしております。また、歯科医科連携では、金属アレルギーをはじめとするアレルギー反応への対策について、歯科における最新の話題を補綴（ほてつ）科の佐藤博信教授、皮膚科の立場から古村南夫教授に書いて頂きました。さらに、地域連携センターの永井淳教授に、福岡歯科大学で行われている取り組みである、お口の体操による「65歳からの健康づくり教室」についての有用なお知らせを頂きました。今後とも病院ぐるみで様々な方面において、皆様の健康づくりを支援していきたいと考えておりますので、ぜひよろしくご依頼申し上げます。 サービスマネー向上委員会 金光 芳郎

本院の特色 ～全身を診ることのできる歯科医師の育成～

安心安全な医療をお届けするためには、歯科と医科との連携が大切です。その点、本院は歯科医師と医師との連携が密で、お互いに協力しやすい環境にあります。患者の皆様におかれましてはどうぞお気軽にご相談いただきますようお願い致します。

また、医師と歯科医師の連携のためには、歯科医師にも医学の専門的知識が必要です。そこで本院では全国に先駆けて「口腔医学」を提唱し、歯科学生の医学教育にも力を注いでいます。

安心安全の方程式は **歯科 + 医科 = 口腔医学**

オーラルくん



歯科医師と 医師との協力の 例として

ストマックくん



- 骨粗鬆症患者の抜歯における整形外科と口腔外科の協力
- 歯周病治療による糖尿病の改善
- 小児のアレルギーにおける小児科と小児歯科の協力
- 蓄膿症における耳鼻咽喉科と口腔外科の協力
- 高齢者の口腔ケアによる肺炎予防
- 舌痛に対する口腔外科、麻酔科、心療内科の協力
- 口臭についての口臭外来と消化器外科の協力
- ドライマウスとドライアイ＝口腔外科と眼科

パート7

今回は、歯科・医科連携の一例として、金属アレルギーにおける協力をご紹介します。

金属アレルギー — 金属を使わない歯科治療 —

補綴(入れ歯)科科长 佐藤 博信

金属アレルギーなどアレルギー疾患が近年どんどんと増えています。しかしながら、現在でも歯科治療、特に補綴(ほとつと読みます)治療には金属が多く使用されているのが現状です。歯科で使用されている金属は多岐にわたっており、代表的な物として、金、銀、パラジウム、白金、コバルト、クロムなどで、合金として使用されていますので、添加物を入れると本当に複雑です。また、金属アレルギーは口の中だけでなく、手のひらなどの遠くの臓器に症状が出ることもあり、原因の究明が難しいことも少なくありません。

一方で金属を使用せずに歯科治療をする医療技術の開発も革新的に進んできており、金属アレルギーを持つ患者さんへ大きな朗報と言えます。とくに2007年以降、コンピュータを使用したセラミックの加工技術が進んできたこと、強度が高く歯に接着できるプラスチック技術の開発が進んだことにより、金属を使用しない歯の治療が可能になってきました。写真左下は4番目の歯(第一小臼歯)の虫歯治療のあとに、光ファイバーを芯にした高強度のプラスチックを接着補強した土台の状態です。この土台の上にオールセラミックでできたクラウンを装着した状態が写真右下です。このような治療を金属アレルギーの患者さんへ行うこととなりますが、自費診療となります。またパッチテストといわれる金属アレルギーの検査法がありますが、感度が良いとは言えない状態であることなど問題は山積です。しかし、平成26年4月より小臼歯に齶蝕治療にCAD/CAM冠と呼ばれる高強度のプラスチッククラウンが保険収載されることになるなど、保険治療も少しずつ改善に向かっているのも事実です。

福岡歯科大学医科歯科総合病院では、皮膚科、口腔外科、補綴科など多くの専門医師の協力のもと、治療体制を整えていますので、まずはご相談ください。

注釈：補綴とは「ほとつ」と読みますが、かぶせ物といわれるクラウン・ブリッジ、取り外し式の入れ歯(総入れ歯や部分入れ歯)、その他インプラントの上部構造(うわもの)の治療ことをいいます。



